

シニアクラブ伊豆の国

会員減少抑止等検討委員会検討結果報告書

I 検討委員会の概要

(1) 設立の趣旨

平成の前半まで全盛を誇った、全老連創立60周年を迎えた旧老人会であったが平成の半ばからピークをすぎて減少傾向に転じ、今や全盛期の半数近くまで減少している。会員の高齢化と若手新規会員加入がほとんどないことと相まって、単位クラブの解散・休会が相次ぎ、シニアクラブの存続が危惧されるなどの非常事態となっている。

市町、県、全国を見ても同様で、この問題解決のため、過去にも幾度か「会員増強運動」なるものが全国的規模で展開されてきた。しかし残念なことにいずれも満足な成果を上げることはできなかった。

今ここに至って、本当に打つ手は無いのか、何らかの打開策が有りはしないかと「シニアクラブ伊豆の国」としても、緊急に検討し、会員減少、会員加入増への対応策を模索する必要があるのではないかと思に至った。

(2) 検討委員会メンバー (○印は委員長)

○海瀬常明、兼子二三、河合勝也、池本節二、神田玉枝、渡辺政子
遠藤泰子(以上クラブ活動推進相談委員)、渡辺美子(事務局)

(3) 主な検討事項

- 1) 会員減少要因とその対応策
- 2) 新規会員加入促進
- 3) クラブ活動の見直し
- 4) 単ク・支部役員の在り方
- 5) 単ク・支部組織の見直し
- 6) 単クの休部・解散阻止策

(4) 検討期間：会議

令和4年6月~令和5年1月(毎月1回定例理事会終了後)
令和5年2月定例理事会に報告、意見聴取

(5) まとめ

令和5年3月定例理事会迄

Ⅱ 会員減少の主な要因とされるもの と 検討結果後の対応策案

(1) 社会環境の変化

少子高齢化・核家族化・一人暮らしの高齢者世帯の増加・雇用関係の変化（非正規雇用）・格差の拡大・趣味娯楽の多様性・交通網の発展（広域移動が容易）・IT化の進展（社会構造の変化）・新型コロナウイルスの全世界的感染等々、

社会環境の変化と地域社会の変容が地域連帯感の希薄化をもたらし、人々のものの見方、ものの考え方を変容させてしまった。

地域の共同体として長く活動してきた、子供会、青年団、女性の会、冠婚葬祭での人寄せ、各種共同作業体「結」などが消滅もしくは崩壊の危機にあることはこの頭れではないだろうか。

— 対応策 —

1) 地域の人々の考えや行動の理解を深める。

シニアで培われてきた経験知識技能などを伝えてゆく中で、いろんな年代層の人々と交流を深め、地域社会に積極的に溶け込んでゆく努力が求められる。

2) 地域の絆を呼び戻す。

シニアクラブ活動の3大運動の一つ「友愛活動」に焦点を当て、共に助け合い、元気で、楽しく、心豊かな地域社会を目指したい。

(2) 高齢化による自然減少

- 1) 死亡・転出
- 2) 高齢化による活動力の低下
- 3) 個人的心身の事情により組織的活動ができない。等々

— 対応策 —

1) 超高齢者の処遇—「寿」会員制度を設ける—在籍するも会費は徴収せず。

(大仁支部吉田単ク実施)

2) 参加できる行事のみ参加—身体不自由の理由で脱会しない。

(3) 個人的要因

- 1) 時間的制約—就業、介護など
- 2) 自由時間が欲しい。
- 3) 趣味価値観—他にやりたいことがある。
- 4) 健康不安
- 5) 外出が不便—遠隔地・車の運転ができない
- 6) 人間関係が煩わしい。
- 7) 能力—役員はできない、やりたくない。
- 8) 意識の問題—まだ高齢者と思わない。等々

—対応策—

- 1) 個人的理由に対し、反論はできない。
- 2) 新規加入促進運動の展開
 - a シニアクラブ活動の利点を粘り強く説く。(別紙資料3参照)
 - b 勧誘のため個別訪問を積極的に行う。
 - c ひとりが一人を説得
- 3) 広報活動
 - a 回覧板の利用
 - b 掲示板の活用
 - c 市の広報誌への掲載
- 4) 行政区役員・多団体役員との話し合い
実情理解を求め、協力依頼
- 5) 市会議員との話し合い
令和4年10月5日、第1回伊豆市議会議員代表団との懇談会実施
「シニアクラブ伊豆の国」の概要説明と会員減少克服の協力依頼

(4) クラブ活動の要因

- 1) 興味関心度が低い—他にやりたいことがある
- 2) 年齢相が考慮されていない—年齢幅が広がっている。同レベルでは無理がある
- 3) 行事が多すぎる。—拘束される日が多い。等々

—対応策—

- 1) 文化的事業—知的関心度の高いもの。但し、あまり重くないもの。
- 2) 体育事業—新たなシニアスポーツの導入…リーダーの養成が課題
- 3) 観光娯楽的事業—バス旅行は人気度が高い。
- 4) 全体的事業の見直し—スリム化を目指して、今後検討の余地あり
- 5) 年齢層を配慮した活動—スポーツ大会のグランドシニアの部、高齢者賞の設定
- 6) 趣味・娯楽等のサークル活動の導入—踊り、ウォーキング、かるた、
健康マージャン、花づくり、卓球、
囲碁・将棋 など
いずれも旗振り役が課題

(5) 単位クラブの休会・解散によるもの

- 1) 役員のみなり手が無い。—面倒なことはしたくない。
 - ・デジタル化について行けない。
 - ・業務が多すぎ
- 2) 若手会員の加入がない。
- 3) 会員の高齢化
- 4) 会員の減少 等々

—対応策—

- 1) 役員の在り方—事業の縮小により、業務軽減を図る。…今後要検討
- 2) デジタル化にどう対応—
 - ・役員自ら対応
 - ・熟練者の支援を要請する。
- 3) 役員報酬を改善する—現行交通費 500 円/月⇒1,000 円/月
- 4) 単位クラブ組織の見直し—
 - ・近隣の単ク同士の合併・併合—（大仁支部案—別紙資料4参照）
 - ・特別個人会員枠を設ける。—大仁・長岡支部実施
単クの解散・休止、未設置地域、特定行事のみ参加希望者
- 5) 支部組織の見直し—支部の廃止…時期尚早につき廃案

Ⅲ 終わりに

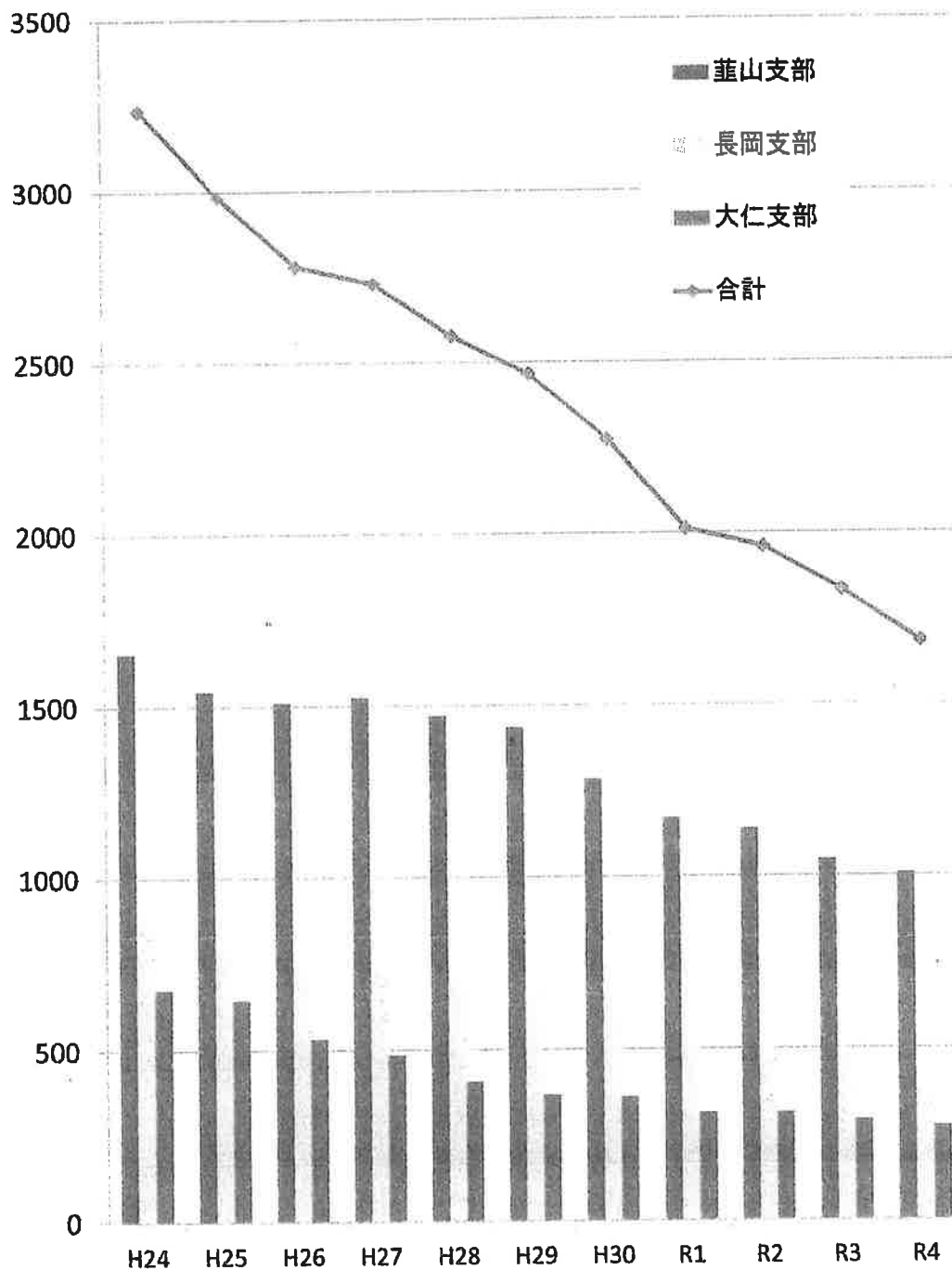
検討委員会としてはかなり時間をかけて検討してきたが、十分議論を尽くした結果の「対応策」だとは思っていません。

即効的、カンフル剤のごとき特効薬など望むべくもないので、少なくとも現状より、会員減少を食い止め、会員加入が望めるならこの上ない喜びとするところです。

これからも、本部役員、各支部・各単ク内において部分的にでも話し合いの場を、積極的に持続して設けて行って欲しいと思います。

(文責 海瀬)

シニアクラブ伊豆の国会議員数の推移(H24～R4)



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
韮山支部	1655	1544	1511	1524	1470	1437	1284	1171	1139	1049	1008
長岡支部	905	795	737	721	700	661	630	527	506	492	400
大仁支部	676	645	532	485	406	367	360	314	314	292	274
合計	3236	2984	2780	2730	2576	2465	2274	2012	1959	1833	1682

令和4年度シニアクラブ伊豆の国組織図

シニアクラブ伊豆の国

事務局

長岡支部

単位クラブ	会員数	高齢人口	加入率 %
長岡東	18	※705	2, 6
長岡西	22	※705	3, 1
長瀬	37	105	35, 2
かつらぎ	31	208	14, 3
天野	68	331	20, 5
富士見	30	235	12, 8
古奈ちとせ	44	964	4, 6
壺之上	—	—	—
谷戸	62	144	43, 1
仲之台	54	190	28, 4
鳥打	—	—	—
町屋	—	—	—
大北	—	—	—
千代田	34	355	9, 6
長塚	—	—	—
10クラブ	400	4801	8, 33

(2022/7・5記入)

大仁支部

単位クラブ	会員数	高齢人口	加入率 %
大仁	—	—	—
吉田	45	345	13, 0
中島	57	120	47, 5
神島	—	—	—
三福	33	662	5, 0
田京	27	1029	2, 6
御門	—	—	—
白山堂	—	—	—
守木	39	411	9, 5
宗光寺	—	—	—
立花	35	297	11, 8
田中山	16	145	11, 0
下畑	—	—	—
浮橋	—	—	—
田原野	10	66	15, 2
長者原	12	40	30, 0
9クラブ	274	4827	5, 68

萑山支部

単位クラブ	会員数	高齢人口	加入率 %
山木	170	403	42, 2
多田	45	310	14, 5
奈古谷	—	—	—
長崎	—	—	—
原木	131	662	19, 8
四日町	235	838	28, 0
寺家	43	448	9, 6
中條	88	290	30, 3
南條寿	50	※1719	2, 9
南條本区	—	—	—
共和	65	236	27, 5
土手和田	136	410	33, 2
立花台	45	311	14, 5
金谷	—	—	—
10クラブ	1008	6402	15, 7

※印は概算

単位クラブ数 計29クラブ

会員数 計1,682名

伊豆の国市65歳以上の人口 16, 030人

伊豆の国市高齢者(65歳以上)のシニアクラブ加入率10, 5%

年齢階層別割合

	男		女	
60~69	34	4, 8%	39	4, 0%
70~74	113	15, 9%	106	10, 8%
75~79	174	24, 6%	232	23, 8%
80~	387	54, 7%	597	61, 3%
小計	708	42, 0%	974	58, 0%
計	1,682		10, 5%	

シニアクラブの魅力—新しい会員への呼びかけ

(新しい会員へ、自信をもって加入を呼びかけてください。また加入チラシなどにも活用してください。)

クラブ会員になると、生き生きとした高齢期の生活(シニアライフ)が実現する。

①地域に新しい仲間ができる。

- ・クラブに加入すると、地域の同世代と仲間づくりができる。
- ・地域の各世代との交流ができて、多くの親しい関係が生まれる
- ・クラブの活動と交流によって、社会性が保持され、連帯感が生まれる。

②健康の保持・増進になる。

- ・クラブ活動に参加すれば、閉じこもりの防止、健康の保持・増進につながる。
- ・寝たきりゼロ運動や生き生きクラブ体操、健康ウォーキング、各種シニアスポーツなど参加を通して健康の保持・増進につながる。
- ・友愛活動や社会奉仕の日の活動などを通して、精神的な充実感、心と体の健康が実現する。

③知識や経験を活かし、新しい能力の発揮ができる。

- ・これまでの生活や仕事、趣味などの知識や経験を生かす機会が増える。
- ・クラブ活動への参加を通して、新しい学習や能力を生かす機会が増え自己実現につながる。
- ・地域の伝承文化を世代交代などにより、若い人たちに伝えることができる。

④社会活動への参画と貢献ができる。

- ・「花のある町、ごみの無い町」運動やリサイクル運動を通して、地域環境の保全や美化、緑化など住みよい環境づくりに参画・貢献できる。
- ・在宅福祉を支える友愛活動やその他のボランティア活動などへの参加を通して、地域福祉の担い手として一翼を担うと同時に、地域の福祉と保健医療サービスの充実についても働きかけるなど推進役となる。
- ・クラブ活動を通して「街づくり計画」などへ参画し、高齢者の立場から豊かな地域づくりへの提言などができる。

⑤心の安らぎ、充実感が得られる。

- ・地域に多くの仲間ができることで、孤独感がなくなり、心の安らぎが得られる。
- ・仲間との交流は日常生活に必要な情報交換に役立ち、心配ごとや悩みごとの相談に役立つ。
- ・クラブ活動を企画し実践する中で、連帯感や満足感、あるいは実践の評価に伴う充実感、感謝の気持ちなど、多くの精神的な喜びを味わうことができる。

令和4年度 シニアクラブ伊豆の国 大仁支部 組織表と会員数

シニアクラブ伊豆の国
大仁支部

単老別三役⇒単老別代表者(責任者と各役)

NO	単位クラブ名	男	女	計	ブロック	男	女	合計	比率
1	中島	29	26	55	南エリア				
2	吉田	20	25	45	〃	67	63	130	48%
3	三福	18	12	30	〃				
4	田京	11	16	27	北エリア				
5	守木	35	4	39	〃	62	39	101	38%
6	立花	16	19	35	〃				
7	田中山	7	9	16	東エリア				
8	長者原	6	6	12	〃	19	19	38	14%
9	田原野	6	4	10	〃				
	合計	148	121	269		148	121	269	100%

(人数)

(人数)

※ 特記事項

- 1) 単老(各シニアクラブ)毎に責任者:代表者(連絡係)と会計を置く。
- 2) ブロック毎にブロック長と事務局を置く。
- 3) ブロック役員は持ち回り制とする。
- 4) 大仁支部の定例役員会は各ブロック長と事務局の2名が参加する。現在14名⇒11名
- 5) 各種スポーツ大会及び行事等については、出来るだけブロック単位で参加者を選出する。
- 6) 団体競技等の場合は、ブロック単位で順位を競う。
- 7) 単位クラブ毎の規約の改正。⇒⇒準会員(賛助会員)の新設。
- 8) 支部の規約改正。⇒⇒支部毎に個人会員(準会員)の新設。
- 9) 会費は最低:500円(本部上納金)とする。

